

## 平成 28 年度第 1 回帯広市環境審議会 議事録（概要）

日 時：平成 28 年 6 月 7 日（火）13：30～15：15

場 所：帯広市役所 10 階 第 5B 会議室

### ○出席者

委 員：梅津会長、今出副会長、明石委員、石井委員、小原委員、加納委員、郷委員、寒川井委員、田沼委員、橋本委員、久永委員、松原委員、谷津委員、山中委員、山根委員  
※欠席者無し

事 務 局：川端市民環境部長、和田環境担当調整監、榎本環境都市推進課長、小林課長補佐、関井係長、小泉主任補、富田主任補、田中主任補

配布資料：議事次第、委員名簿、座席表、帯広市環境白書-平成 27 年度版-、平成 28 年度環境モデル都市の取組み概要（資料 1、資料 2）、戸蔭中島大川河畔林帯広市自然環境保全地区（資料 3）

### 1 開 会

#### 出席確認

事務局から、15 名中 15 名の委員が出席し、審議会が成立していることを報告。

### 2 副市長挨拶

### 3 議 事

（1）帯広市環境白書平成 27 年度版について、事務局より説明。

#### ○委員からの意見・質疑

【委 員】第二期環境基本計画の期間のうち半分が経過しましたが、環境指標項目の指標値はすでに達成しているものもあれば、リサイクル率やゴミの排出量、植樹本数など、かなり厳しいものもあります。項目によって到達までの難易度の差もあるし、維持しなければならないものもあるし、努力目標もあります。指標値の中間見直しはしないのでしょうか。

【事務局】今、ご意見頂いたとおり、目標にも理想的な部分と現実的な部分の幅があると認識しております。どこにその照準を合わせて数値目標として掲げるかという難しさがあります。お話のあったゴミの部分については、そもそもの目標の設定が厳しかったのかなと思っております。

計画の中間見直しについてですが、期間の途中で 100%達成しているものについては、それを更に継続する努力をしますし、達成していないものはどこが課題になるかということを検証しながら、あくまでも 10 年後の目標として、この数値は変えないでこれに向かっていくという考え方です。

【委 員】重要な指標や問題のある指標については、現状はこうですと、それからトレンドとしてはこうなりそうですと予測をたてるなり、今後発生するリスクは何かあるのかとか、そういったところも分析してわかりやすく説明して頂けると良いということです。例えばゴミの問題についてはどういふリスクがあってどういふふうに対応していかなければならないとかがありますか。

【事務局】ゴミを出さない生活スタイルというのは非常に大事なことで、自然環境の保全にも繋がって  
いくものだと思います。今後につきましても、今、ディスポーザーの検討をしているところですが  
れども、引き続きコンポストの普及とか、無駄な買物をしないといったような啓発を含めた取組み  
を進めていきます。

【会 長】指標値ということで、目標を数値で表して、その達成率も数量的に或いは計量的にどうなっ  
ているのかということで、客観的に評価しなさいという方向にあって、なかなかそぐわない部分も  
あると思います。例えば土壌環境なんかだと1地点で計測し、その1地点が環境基準を満たしてい  
るから達成率100%というのめいかかなものかといったところもありますが、そういった制約の  
中で苦労してまとめられていると感じます。

【委 員】指標値の件で、同じく気になった点があります。これは以前も言ったかもしれませんが、森  
林面積の減少率の指標値が0ということは、増えも減りもしなければ良いという、かなり優しい指  
標となっています。CO2削減などに関しては、森林が増えれば良いことが多いはずなのに、0とい  
うのはかなり優しい基準だと思います。あと、植樹の本数も増えてないとか、もうちょっと木を大  
事にして欲しいという思いが前からあって、特に帯広の場合は結構保存地とかつくっておられるの  
ですが、大きく減っていることがあって気になっています。開拓の歴史とか色々あって、木や森林  
というものに良いイメージがないのかもしれませんが、あまりに簡単になくなってしまふ点が非常  
に気になっているので、0でなくもうちょっと増やしてくれたら良いのという思いがあります。  
これは基準なので良いとして、数字を見るとプラス0.2とか0.02とか、これは22年比でしょ  
うか。それとも前年比でしょうか。

【事務局】前年比になります。

【委 員】そうすると、前の年に大きく減っても、次の年が0なら達成ということになってしまうので、  
それもどうかと思います。もちろん指標値というのは最初に決めてしまったことですので、今から  
どうこうということではないのですが、前年比で0というのはあまりにも優しい目標な気がします。

植樹の関係で、市内の累計植樹本数というのがありますが、15万本という目標に対し、実績が  
凄く少ないですね。これは木を植えるお金を確保すればそんなに難しくない。帯広の公園は全国的  
にみるとびっくりするほど土地が広いわけで、そこに木を植える本数というのは、ちょっとした工  
夫で大きく増やすことができる気がします。もちろん予算という一番難しい問題があるかと思いま  
すが、他の指標と比べ、あまりにも目標と実績の乖離があるので気になりました。

【事務局】森林の面積については、減少傾向にある中、最低限維持しようというのが基本的考えです。  
植樹につきましても、もっと伸ばしたいとは思いますが、おっしゃるとおり予算の関係や国の配分  
もありますので、限られた予算の中でいかにうまく活用し、本数を増やしていくかということが今  
後の課題だと思います。ご指摘のあったとおり、指標の置き方はまだ検討の余地があるかと思  
います。先ほど申し上げたとおり、現計画については31年までこの目標ということで設定していま  
すが、次期の見直しの際には今のご意見も踏まえ、目標値のあり方について考えたいと思います。

【委 員】目標値設定が対前年比というのはやはりどうかと思います。是非ご検討頂けたらと思います。

もう1点、リサイクル率のところも低いですね。個人的に普通に暮らす中でゴミ出ししていると、落葉とかゴミがたくさん出ますよね。生ゴミをコンポスト化すればなんとか減らせるのではとも思っていて、今見ていると市から補助が出るのですね。エコキュートやエコジョーズの補助があるのは知っていましたが、コンポストに対しても助成があることをずっと知らずにいたので、もっとPRすることでゴミの減量の方向に向けられるのではないかと思います。というのは、近所を見る限り、意外と使ってないんですね。ゴミ捨て場を見ても落葉の入った袋がたくさん出されているので、刈った草を含め、コンポスト化すれば、そのまま自然に還しても良いものですから、効率良くゴミを減らすことにつながるのではという気がしたので、もっとPRを考えたら良いと思います。

【事務局】ホームページとか広報でPRをしていますけれども、おっしゃるとおり、それだけではなかなか周知が広がっていかないのかもしれないかもしれません。PRの仕方を含め、コンポストにつきましては清掃事業課の方でやっておりますので、そちらの方にも今の意見をお伝えして効果的に使って頂けるよう考えていきます。

【委員】例えば、お店に貼紙を貼っておくとか、売り場に市の助成がありますとか、そうすると意外とみんな手が出るのかなと思います。

【委員】25ページの、26年度の環境指標の抽出のところに評価対象地域の評価結果があり、18というのが最高となっていますが、この最高数値というのはどのくらいの数字がつくのですか。

【事務局】最高値は指標の抽出というところに説明がありますが、29が最高となっております、それぞれこれに該当するか否かという評価になります。

【委員】この他には評価対象地域を設けなかったのですね。

【事務局】この段階では、まず指標を抽出するということで調査を行いまして、この指標に基づいていくつかの地域で試行的に点数・評価をしてみましょうということで付けたもので、これ以外の場所では、26年度の調査では評価は付けておりません。

【委員】大気汚染のところで、今後PM2.5については測定体制を整えていくという話がありましたが、平常時の放射能レベルは測定されているのですか。

【事務局】北海道で測定しており、十勝総合振興局でも測定しています。

【委員】最近黄砂が気になるのですが、どこが所管しているのでしょうか。

【事務局】黄砂とか大陸からの越境汚染といった類いのものは、大変関心が高いところだと思います。これらの観測なのですが、都道府県レベルで行っている自治体もありますが、日本の場合には特に気象庁が観測網を持っておりまして、気象庁のホームページ上で黄砂飛来情報という予測マップを公表しています。黄砂の観測は大気汚染防止という観点からは特段の測定項目ではないので、帯広市としては、そういった気象の観測状況を必要に応じて発信していき、こういうものをご活用いた

だきたいと考えています。

【委員】放射能とか黄砂もそういうところで観測しているということがわかるようにPRされた方が  
良いと思います。

【委員】地下水の汚染について、前回の環境白書の説明の際にも出ましたが、1件超過して出ている  
ところがあります。件数だけで数値がどれくらい突出しているのかわかりませんが、排出源が特定  
されていないようで、ずっと続くと良くない気がします。地下水の流れについてはある程度把握で  
きると思うので、もし何年も続くようなら、発生源を特定するような努力をした方が良いと思いま  
す。もちろん行政の枠組みも色々あると思いますし、難しいことは分かるのですが、出所になりそ  
うな業種とか分野はわかると思うので、何かできるのではないかと思います。

【事務局】テトラクロロエチレン自体は比較的広く使われていた溶剤で、例えばクリーニング屋のドラ  
イクリーニングなんかに使われていたような溶剤です。ただ、過去の経過などからしますと、この  
溶剤自体はドライクリーニング以外の用途にも使われていた可能性があり、例えば過去に農薬の希  
釈の為に使われていた経緯がありまして、はっきりとここが間違いなく発生源で、そこから流入し  
ているということは現状の観測体制では北海道の方も断定できない状況ということで、継続的に監  
視していると聞いております。

【委員】どんどん広がっていくタイプの薬剤なので、何年も続くということは、ずっと出ているとい  
うことだと思います。そこが非常に気になります。要は誰かが昔、1回悪い事をして、それから残  
っているというタイプのものではないような気がします。

(2) 平成28年度の環境モデル都市の取組みについて、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

特になし。

(3) 前年度、自然環境保全地区に指定した戸蔭中島大川河畔林の現状について、事務局より説明。

○委員からの意見・質疑

特になし。

#### 4 閉会